

・通所介護

分類	番号	タイトル	概要	ページ数	標準学習時間(分)	職員		
						初級	中級	上級
身体介護	1	入浴介助・清拭・整容	入浴・清拭・整容の必要性及び効果について、ポイントを押さえて解りやすく説明しています。また、入浴については機械浴槽の扱い方や手順、清拭は全身清拭・部分清拭の手順を解説し、整容では身だしなみの重要性について説明しています。	20	65	○		
	2	排泄介助	排泄の支援に必要な知識から、実際の援助方法などの技術的な要素を取り入れた内容です。具体的な場面を想定しながら学習できるよう、また利用者の自立支援も視野に入れながら解説を加えています。	22	55	○		
	3	食事介助	生命維持に不可欠な食事摂取について、介護に必要な利用者の状態に合わせた手順や必要物品など、現場において必要不可欠な知識や技術の習得に役立つよう実践的な構成としています。	16	60	○		
	4	口腔ケア	口腔ケアの目的や基本的知識の習得をはじめ、利用者の状態に合わせた口腔ケア方法を数多くの事例を挙げて説明しています。	12	50	○		
	5	移乗・移動介助及び体位変換	利用者はもとより職員の身体について、ボディメカニクスを踏まえた知識の習得により、安全で安楽な介護ができるよう、具体的な事例をもとに解説しています。	21	55	○		
	6	身体的拘束等廃止の取組について	身体的拘束廃止に向けて取り組む際のガイドラインのポイントを踏まえ、業務の手順や委員会活動のあり方について解説しています。	15	35			○
	7	高齢者虐待について	高齢者虐待防止法に則り、職員一人ひとりが取り組むべき課題や日常の中で虐待が発生しない組織の体制づくりについて、行政との連携も含めて解説しています。	22	55	○	○	
	8	褥瘡予防対策	褥瘡に関する知識習得や褥瘡予防に向けた対応方法、褥瘡発生を未然に防ぐための道具の活用方法について具体例を示しながら解説しています。	11	50	○	○	
倫理規定など	9	法令遵守（法令、省令など）	法令遵守とコンプライアンスの違い、事業所内での組織の役割などを解りやすく説明しています。介護・福祉事業者の職員としての行動規範を再認識し、法令遵守のできる職場を目指します。	22	50	○	○	○
周辺業務	10	高齢者の理解	新任の職員のために「老い」とは何か、具体的な老化現象を生理的、心理的、社会的な面から説明します。また、利用者のA D Lを向上するための援助方法を学ぶことができます。	24	65	○	○	
	11	認知症及び認知症ケア	認知症の利用者に対する介護サービスの質の確保のために、施設職員として認知症及び認知症ケアに関する知識及び理解を深めることを目的とした教材です。	24	65	○	○	
	12	介護職員の接遇	対人関係の業務においてもっとも重視される接遇について、職員の身だしなみや対応の10カ条として具体的な解説を加えています。	18	35	○	○	
	13	服薬管理（医療に関する教育）	利用者の健康と生活の安定を図るために必要な服薬管理について、役割や服薬介助方法について手順を含めて、誤薬事故防止に対する内容を取り入れながら解説しています。	13	40	○	○	
	14	事故発生予防及び再発防止	事故発生時の対応方法や対応の体制を説明し、今後の事故再発防止策の進め方に関して解説しています。	12	35			○
	15	感染症及び食中毒の予防及びまん延防止	感染症に関しての基本的な知識を学び、食中毒などの予防と感染防止策を理解します。また、ノロウイルスなどの例を具体的に挙げて、解説します。	27	45		○	○
	16	相談・苦情・クレーム対応	苦情とクレームの違い、その対応や手順などについて、標準化した記録の書き方まで解説しています。	23	50			○
	17	多職種連携（主治医、地域包括支援センター等）	今後、地域包括ケアを推進していくために必要となる多職種の連携をより円滑に行えるよう、医療系職種を中心にその役割や連携の目的を解説しています。	45	50			○
	18	非常災害時対応	大規模地震などの自然災害、火災・事件・事故などをリスクとして捉え、必要となる組織体制や運営方法を説明します。また、緊急時の対応に関しても具体的に説明します。	21	40	○	○	○
	19	リスクマネジメントについて	リスクの定義づけからリスクに対する認識度を向上させるための考え方やその手法について、ケアマネジメントと同様にP D C Aサイクルがリスクマネジメント活動の基本であることに気づきを持てるよう解説しています。	14	45		○	○
	20	急変時の対応（事故の発生等緊急対応）	利用者や家族に安心して安全な施設サービスを受けてもらう為には、急変及び急病の処置を迅速で適切にできるようにすることが求められます。その為に必要な内容を事例を挙げて解説します。	13	45		○	○
21	プライバシー保護	利用者の羞恥心への配慮等に必要プライバシー保護の理解を深められるよう具体例を挙げて解説しています。	7	20	○	○		
合計				402	1010			